

鳥取の手仕事

伝統の技と新たな挑戦

西部地区の陶磁器 [第9回]

県西部では、茶の湯の文化に根付いた器づくりと日常に使う器づくりが継承されてきました。今回は、西部の伝統工芸士の窯元を紹介します。



泥彩線紋花器
法勝寺焼松花窯

茶陶の継承 法勝寺焼・松花窯

法勝寺焼松花窯は、明治38年に初代安藤秀太郎が法勝寺川のほとりに築窯して法勝寺焼を創設し、花器や茶碗を制作したのが始まりです。初代秀太郎は、出雲、伯耆、石州の窯元で学び、抹茶の道具や酒器など茶人に好まれる器を作り出しました。焼き上がり柔らかく、土瓶などにその特徴がよく現れています。

二代嘉章は、県立窯業試験場で釉薬の研究後、初代の陶法を受け継ぎながら、豪放で変化に富んだ作品を作りました。また、三代長男は、国立陶磁器試験場（京都）で学び、牛ノ戸焼で作陶しながら、法勝寺焼の伝統を守りながらも、時代や人々の趣向の移り変わりを取り入れた茶器などを作りました。

そして、四代真澄（当代）は、唐津焼窯元で修行後、帰郷して二代嘉章、三代長男に師事し、



青釉番茶器
法勝寺焼松花窯

現代感覚のデザインを取り入れ、布目文様や泥彩を使った作品づくりに取り組んでいます。感性豊かで繊細なデザインと安定した技術が持ち味です。

広く親しまれる器づくり 法勝寺焼・皆生窯

昭和36年に、法勝寺焼二代目・安藤嘉章が松花窯の脇釜として皆生に登窯を築いたのが法勝寺焼皆生窯の始まりです。手法、焼成は、法勝寺焼松花窯と同じものですが、皆生の砂や日野川河口の砂鉄を粘土や釉薬の中に混ぜるなど新しい技法も取り入れています。

法勝寺焼皆生窯二代目・三（当代）は、嘉章に師事し、現代的な技術を取り入れながら、皆生窯の伝統を守っています。



「もう少し」
法勝寺焼皆生窯

象に陶芸教室を積極的にに行い、「自分で作った作品は、日常生活の中で自分で使い、楽しもう」と手仕事の良さを呼びかけています。

曜変釉薬の探求 大山焼・久古窯

初代鈴木敏之は青磁作家三代目諏訪・蘇山に師事した後、大正時代に焼かれていた大山焼を再興し、昭和45年に開窯しました。山陰の土地に根ざした自分自身の作品づくりを模索する中、「玉鋼」を作る工房を訪問し、「鋼のかけら」に出会い、金属的な発色を焼き物に加えることを決意。タタラの歴史がある中国山地から産出する玉鋼の原料を使い、玉鋼曜天目の研究を深めました。大変



玉鋼曜一輪挿し
大山焼久古窯

抹茶茶碗
法勝寺焼皆生窯



鳥取県西部地区の窯元

今回紹介した三つの窯元では、地元のかたを対象に定期的に陶芸教室の開催しています。また、観光客や一般向けに陶芸体験教室も行っており、最近申込みが増えています。

陶芸体験に挑戦してみませんか？

このような鉄釉を主として使用し、発色の変化に富んだ玉鋼曜天目をはじめ、青釉・油滴・均窯・灰釉などの作品を制作しています。

詳しくは…

- とりネット「ととりの手仕事」(手仕事全般)
<http://www.pref.tottori.lg.jp/teshigoto>
- とりネット「ととりの工芸品」(伝統的工芸品)
<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=95598>
- パンフレット「鳥取の手仕事」(鳥取県市場開拓室発行)をご覧ください。

問合せ先 県庁観光政策課
電話 0857-26-7237

未来の匠を目指して 頼もしい後継者たち

法勝寺焼松花窯 安藤倫理さん



松花窯五代目になる倫理さんは、県外で陶芸の基礎とデザインを学んだ後、帰郷。現在は、父親であり尊敬する師匠でもある四代目の真澄さんから、基礎技術をはじめさまざまなことを学びながら作陶に取り組んでいます。

帰郷して間もなく制作した師匠直伝の布目文様技法を用いた、リングをモチーフにした斬新な作品は、第42回女流陶芸展で受賞。また、最新作のぼたんの器は、大小の鉢が重なり合った、一つの花を形作るユニークな作品です。

「今後はろくろをから学び直したいです」と、基礎を大切にしつつ新しいことにも果敢に挑戦する後継者倫理さんを、師匠の真澄さんは業界の現状が厳しいから、楽しくやるのが大事」と温かく見守ります。



ぼたん組鉢 倫理さん作

大山焼久古窯 鈴木治道さん

二代目の治道さんは、県外で陶芸を学び帰郷し、初代敏之さんに師事しています。曜変釉薬の探求を続ける師匠の影響が、治道さんも釉薬の研究に熱心で、新作では「均窯釉」という乳青色の釉薬に挑戦しました。「調合、焼き方など、色々なことに苦心して、やっと目指した発色になりました。本当に難しいです」と治道さん。



「今度は、大きな作品に挑戦したい」と抱負を語る若き後継者のそばで話を聞いて聞いている「三」笑顔の師匠は、「普段は何も言わず、自由にさせてくれ、技術的な壁に当たったときは助言してくれる」心強い味方。誰よりも二代目の今後を楽しみにしている様子です。

法勝寺焼皆生窯 安藤青磁さん

法勝寺焼皆生窯三代目青磁さんは、会社勤務後、帰郷し、二代目三さんに師事。現在は県外で陶芸の修行中。来春、帰郷される予定です。鳥取県での活躍が楽しみです。



均窯釉花器 治道さん作